

(様式5)

教師力向上支援事業派遣研修報告書

- 1 所属・職・氏名 富山県立富山高等学校・教諭・樋掛 雅則
- 2 研修期間 令和6年7月25日(木) 1日間
- 3 調査研究課題 企業人の視点に触れて考える「発展的未来」
- 4 研修機関等 株式会社インテック大山研修センター
- 5 研修の概要

- ① 講話(牧田 和樹 氏) → 「人間力」に関するディスカッション
- ② 講話(小林 聖子 氏) → 「運」と「キャリア」に関するディスカッション
- ③ 「組織」に関するディスカッション
- ④ 講話(出雲 充 氏)
- ⑤ 意見交換会

●講師の方や、参加された経済界の方々、先生方からいただいた学びや言葉

○どのように協働し、活力ある生産的なコミュニティを形成するか。

説得されても人は動かない。「納得」すると動く。能力的・人間的魅力のある人が、情緒的・論理的に対応することで「納得」に至る可能性が兆す。

○人とひとのつながりや、信頼関係がどのように形成されるか。

話の中で音楽で意気投合する。たとえば不意に「貞観政要を知っているか。」問われる。文化的教養が接点となることもある。

○教師は人間力向上を心がけ「立派な人間」として規範を示すことを前提としつつも

自分は「人間力」に欠けているところがある。ただ、教師として敢えてそれを隠さずにふるまうことが、生徒の成長や、クラスづくりにつながることもある。生徒にはそれを理解し、行動する力がある。

○日常や人生の幸運や不運

「運が良い」と直ちにわかる出来事は実はそう多くはない。前後の生き方が、「出来事」を「幸運な出来事」に変えていく。

○本気で取り組んだ苦悩、苦勞の体験、実感が詰まった言葉

ミドリムシは、食物連鎖の最底辺にいる。いたら、食べられる。だから、大量培養が難しい。

○新幹線の橋脚の一か所だけ間隔が広い。あいの風鉄道から地鉄に乗り入れられるようになっている。

使わなくてもいい。ただ、後のことを考えて可能性は残しておく。そういう仕事をしてきた。

●様々な価値観に触れて

2日間のプログラムのうち、1日目のみの参加となりましたが、普段の生活の中では出会う事のないような方との出会い、そして、普段考えないような問いや、触れることがないような考え方と出会う機会となりました。

近頃は不確実、不確定な時代ともいわれます。その影響もあってか、近頃確信を持って行動したり、迷いなく決断したりという事は以前より少なくなり、どこか「自分の中にある対立する意見を7対3で採用」するようなことも増えているように感じます。今回のような機会は、そうした迷いを整理して解決する側面と、さらにさまざまな視点から考えてみることを促されているような側面とを併せ持っているように感じます。今回いただいた新たな視点や異業種の方とのつながりを勤務校での業務に活かしたり、実践の中で自分なりに深めたりすることで、今回の研修をより「幸運な出来事」としていきたいと感じました。